# 郷史だより

## 小須戸郷史(へんさん)室

(28)

### 学校遠望

詩人、丸山薫の作品に「学校遠望」という詩がある。

学校を卒へて　歩いてきた十幾年
首を廻らせば学校は思ひ出のはるかに
小さくメダルの浮彫のやうにかがやいてゐる
そこに教室の棟々が瓦をつらねてゐる
ポプラは風に裏返って揺れてゐる
先生はなにごとかを話してをられ
若い顔達がいちやうにそれに聴入ってゐる
とある窓辺で誰かが他所見をして
あのときの僕のやうに呆然こちらを眺めてゐる
彼の瞳に　僕のゐる所は映らないだらうか？
ああ　僕からはこんなにはっきり見えるのに

誰もが、一度は出会ったであろうことを、作者はすぐれた詩にまとめている。

自分が、むかし学んだ学校を見ると、誰の心にもノスタルジア（郷愁）が湧くであろう。学校の窓からぼかんとよそ見をしている少年の姿に、作者は限りない愛憐の情をそそいでいる。

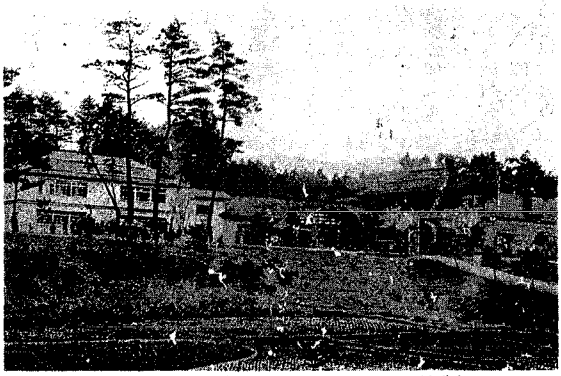
紙上の写真を見ていただきたい。これらの校舎は、昭和四〇年にはすべてがなくなって、ただ一つの遺物であった中学校の旧体（写真左方）も新しい校舎の姿に変った。

「横水校沿革史」に次のような一節がある。

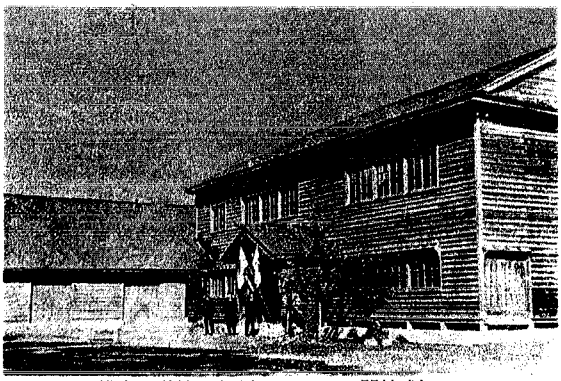
昭和二九・一〇・一　新校舎へ移転のため旧校舎の閉校式を行なう
仝　一〇・三　父兄会にて新校舎へ荷送りをする
仝　一〇・五　新校舎へ児童初登校する
昭和三〇・二・二五　横水校旧校舎にて学芸会を行なう
仝　三・二五　卒業式を横水校旧校舎で行なう
仝　三・三一　横水小学校廃校となり三校統合となる

これらの木造校舎を見るとき、かってここに学んだ人々にいろいろの想い出を誘うであろう。過去は悲しいまでにはっきり瞼に見えるのに、未来は何一つ見ることができない。歴史は自然の風景までを変えて流れて行く。

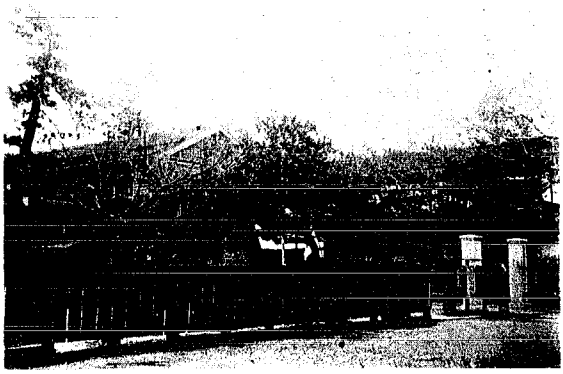
旧小須戸小学校　（昭和30．11．29 閉校式）



矢代田小学校旧校舎　（昭和26．2．21 焼失）



旧横水小学校　（昭和29．10．1 閉校式）



旧新保小学校　（昭和29．10．2 閉校式）

小須戸中学校　（昭和36．9．16
旧木造校舎　第二室戸台風に被災）